

自然システム学専攻	研究分野	生理活性物質工学	Lab. ID NS12
研究室Webサイト	http://bioact.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.htm		
研究課題の概要			
<p>現代はストレスの多い社会であり、精神的、社会的ストレス、環境からのストレスなど様々なストレスに晒されて我々は生活しています。生物は生きるために酸素を必要とし、取り入れた酸素を体の中で様々な形で活性化することで複雑な生命活動が秩序正しく行われていますが、その恒常性(バランス)が崩れた時には、取り入れた酸素が逆に生体にとっては害となります(酸化ストレス)。こうした酸化ストレスは老化やさまざまな疾病の原因のひとつに考えられています。当研究室では予防医学的観点から、抗酸化システム、ストレスシグナルに焦点をあて、酸化ストレスに関する研究を広範に行っています。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>博士前期課程・後期課程ともに、基本的には研究内容および研究の方向性は学生の自主性を重んじて決める。座学によって専門知識を深めつつ、英文学術雑誌の精読をとおしてグローバルに活躍するための英語力を向上させる。また、ゼミや学会での研究発表をとおして、プレゼンテーション力を高める。上回生はB4学生の研究補助を経験することで、コミュニケーション力、企画力、マネージメント力などの企業で求められる基礎的素養を身につける。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>毎日、研究室にて実験・研究を行う。これに加えて、研究会(自身の研究に関して発表し議論する)および雑誌会(学術雑誌論文を紹介して議論する)をゼミ全体で毎週行っている。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2017.3	エリスロポエチンの抗腎線維化作用における自然免疫(RIG-I-MAVS経路)の関与		
2017.3	陸棲ラン藻 <i>Nostoc commune</i> 由来の新規マイコスポリン様アミノ酸誘導体の化学構造解析		
2017.3	フェニルプロパノイド類の抗酸化機能の解析		
2016.3	酵母呼吸鎖複合体の抽出方法に関する研究		
2016.3	玄米中の各種ビタミンE類の定量		
2015.3	天然抗酸化物質3,4-Dihydroxybenzalacetone(DBL)、及びCaffeic acid phenethyl ester(CAPE)の神経保護メカニズムの解析		
2014.3	顕微ラマン、IR解析を用いた α -リポ酸-シクロデキストリン包接体の構造解析		
2014.3	肥満関連ヘパトカインLECT2の肝発現制御機構に関する研究		
2013.3	α -リポ酸のKeap1/Nrf2経路を介したヘムオキシゲナーゼ-1誘導による抗酸化メカニズム		
2013.3	リポ酸によるMet/HGF受容体活性化阻害を介した肺がん細胞増殖抑制		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
2017.3	マウスにおける食事誘導性体重変化時の脂肪肝感知ヘパトカイン LECT2 の急速な反応		
2014.3	R- α リポ酸-シクロデキストリン包接体の物理化学的特性と応用に関する研究		
2013.3	麴甘酒の機能性に関する研究		
研究室連絡先メールアドレス	松郷 誠一 教授 <s-matsugoh@se.kanazawa-u.ac.jp>		